

# 「命をかけて村人を守った人々の生き方に学ぼう」

—村人さえ無事ならば—

○科学的認識 ○気づく力 ○共生意識

小学校6年

## 1 題材設定の趣旨

社会科の歴史学習の中で、「身分上きびしく差別されてきた人々」が厳しい差別を受けながらも、農業をはじめ、様々な仕事をしながら人々の日常生活に役立つ用具を作るなど、社会を支えたことを学習した。

しかし、このような学習だけでは知識・理解の段階にとどまり、児童が差別に対する憤りを持つまでには至らないと思われる。

そこで、社会科学習との関連を大切にしながら、学級活動等を通して、被差別部落の人々の生き方・考え方や、具体的な社会貢献の姿を深く学びたい。

## 2 ねらい

- ・「身分上きびしく差別されてきた人々」が差別に負けず、相互扶助や新しい仕事の開発により、たくましく生きていたことがわかる。
- ・医学の発展などに貢献したことがわかる。
- ・差別されながらも命をかけて村人を守った勇気に触れ、そのような人々に対して行われた差別に対して憤りの気持ちを持つ。
- ・差別を許さず、家族の命とくらしを守るために闘い、人間としての誇りを貫いた勇氣に共感する。

## 3 指導計画

月	時間	学習内容	活動内容(人権の視点)
10	2	江戸時代の身分と差別 (社会科)	・身分制度について学習する。 ・差別の内容と、差別されていた人々の生活について学習する。 (科学的認識)
	2	江戸時代の日本と身分 上きびしく差別されて きた人々の人口 (社会科)	・日本全体の人口変動のグラフを見て、病気や災害により、江戸時代の人口が停滞していたことを知る。 ・グラフの比較により、差別されていた人々の相互扶助や、農業以外の仕事を開発した事実を知る。 (科学的認識)(差別に気づく力)
11	1	「解体新書」完成に力を つくれた人々 (社会科)	・「解体新書」の完成に大きな役割を果たしたことを知る。 (科学的認識)
	1	村人さえ無事ならば (道徳)	・自分の仕事に誇りを持ち、命をかけて村人を救った事実を知る。 ・勇氣や人間的な豊かさに触れ、差別に怒りを持つ。 (差別に気づく力)(共生意識)
	1	渋染一揆に学ぶ (社会科)	・差別を許さず、家族の命とくらしを守り抜いた闘いの様子を知る。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間としての誇りを貫いた人々の生き方に共感する。 (共生意識)</li> </ul>
1	明治の解放令と全国水平社運動 (社会科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解放令発布後も差別がなくならなかったことを知る。また部落解放のために人々が自ら立ち上がったことを知る。(科学的認識)(共生意識)</li> </ul>

#### 4 具体的な活動内容(実践事例) 【第3時】

A 題材名 「江戸時代の日本と身分上きびしく差別されてきた人々の人口」

B ねらい

江戸時代、病気や災害のために日本の人口が停滞している中で、相互扶助や新しい仕事の開発により、差別されてきた人々の人口が増加した事実を知り、やさしく、かしこく、たくましく生きた人々の生き方に共感する。

C 指導上の留意点

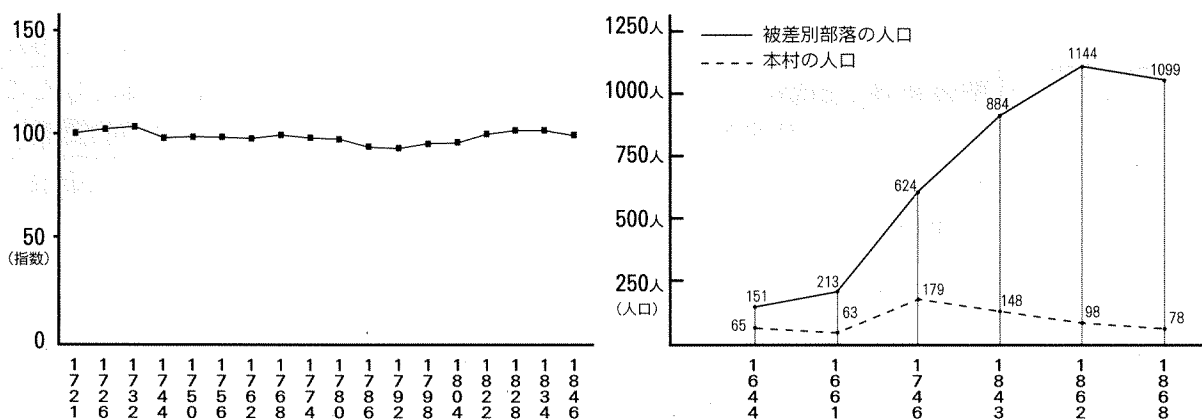
- ・日本全体の人口変動グラフと、差別されてきた人々の村の人口変動グラフは、比較しやすいように提示する。(資料参照)
- ・相互扶助や新しい仕事については、同和教育ビデオ「誇りうる部落の歴史」などを参考にする。

D 実践記録

時間	児童の活動	指導・支援
導入 (10')	・差別されてきた人々がくらしていた村の人口増加について調べる。	・江戸時代の日本全体の人口変動グラフと、差別されてきた人々の村の人口変動グラフを提示する。
展開 (25')	・人口が増えたわけを予想する。	・児童の予想をもとにしながら、相互扶助の伝統があることや、様々な仕事に就いて収入の安定を図っていたことを知らせる。
終末 (10')	・きびしい中でもたくましく生き抜いた人々の気持ちを考えあう。	・きびしく差別されながらも助け合い新しいものを生み出していこうとする人々のたくましさに共感させる。

[資料]

グラフ1 江戸時代の総人口(同和教育基礎資料)東京書籍より



【第6時】

A 題材名「村人さえ無事ならば」（「あけぼの」小学校高学年用参照）

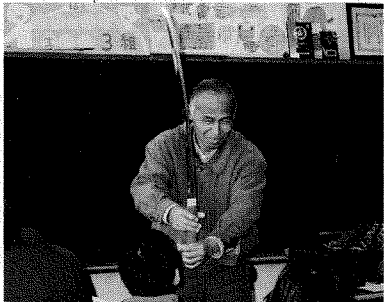
B ねらい

江戸時代の身分差別について学んできた子どもたちが、「村人さえ無事ならば」を読み、警備役の3人がとった行為や心情を考えあうことを通して、命をかけて村人を助けた「身分上きびしく差別されてきた人々」の豊かな人間性を感じ取ることができる。

C 指導上の留意点

- ・刀を提示する場面では、刀にのみ意識が向かないように、常に警備役の3人の心情と結びつけるよう配慮する。

D 実践記録

時間	学習活動	児童の反応	指導・支援
導入 '5	1 今までの学習を想起し、江戸時代の身分差別について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「差別されてきた人々はきびしい差別を受けていた。」</li> <li>・「互いに助け合ったり、農業以外の仕事を工夫していた。」</li> <li>・「社会の役に立っていた。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの学習の流れを前面に提示し、学習を振り返らせる。</li> </ul>
展開 '30	2 資料「村人さえ無事ならば」の前半部分を聞き、自分ならどうするか考えを持つ。  3 刀や十手を見たり、手にしたりしながら自分の考えを見直す。 4 資料の後半を読み、実際に3人がとった行動を知り疑問を出しあう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○助ける               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「それが仕事だから責任を果たす。」</li> <li>・「村人や手品師がかわいそう。」</li> <li>・「助けないともっと差別される。」</li> </ul> </li> <li>○助けない               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分たちを差別している村人だから。」</li> <li>・「自分の命が大切だから。」</li> </ul> </li> <li>・「いくら仕事でも十手で刀には立ち向かえない。」</li> <li>・「やっぱり自分の命が大切。」</li> <li>・「こわくても差別されなくなるなら助ける。」</li> <li>・「いくら自分のつとめだといっても、よく命までかけられるな。」</li> <li>・「自分のけがのことは気にせず、村人のことを一番に考えているなんてすごい。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を範読する。</li> <li>・登場人物の関係図を提示し状況をつかませる。</li> <li>○「みなさんは資料の中の警備役の一人です。あなたならどうしますか」と発問し、考えを発表させる。</li> <li>○一通り考えを出させたところで、「ところで、皆さんは刀を見たり、手にしたりしたことがありますか」と発問する。</li> <li>・刀や十手を用意し、その重みや刃の鋭さを実感させる。</li> <li>・「あけぼの」を用意させ、「村人さえ無事ならば」の後半部分を読ませる。</li> <li>○「資料を読んで感じたことや思ったことを発表してください」と発問し、考えを発表させる。</li> </ul>

	5 警備役の3人の行為や心情を考えあう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「差別する村人をなぜ助けたのだろう。」</li> <li>・「差別されていても、自分の命をかけてまで村人を助けるなんてすごい。」</li> <li>・「刀を持っている浪人に立ち向かうなんてすごい勇気だ。自分にはできない。」</li> <li>・「自分の命より村人の命を大切に思っている警備役の3人はとても優しい。」</li> </ul>	○「村人を助けた警備役の人たちの気持ちを考えましょう」と発問し、考えを発表させる。
終末 '10	6 本時の感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「こんながんばっている警備役の人たちを差別するなんておかしい。」</li> <li>・「武士は自分のためとはいえひどいことをしていた。」</li> <li>・「自分のことより先に他人のことを考えられるなんてすごいと思った。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の感想を学習カードに記入させる。</li> <li>・2～3人の児童に感想を発表させる。</li> <li>・「自分の命」より「他人の命」を守ろうとした人々の心情を大事に扱う。</li> </ul>

#### E 教材、資料、その他

- 「村人さえ無事ならば」（長野県同和教育推進協議会刊行「あけぼの(高学年)」参照)

平成5年、江戸時代代々名主を務めてきた家で所蔵する古文書の中から、被差別部落の人々が書いたと思われるものが見つかった。

この古文書は同年、地元の中学校で同和教育の資料として教材化され、今日に至っている。そして、そこには被差別部落の人々が命をかけて村人を守ろうとしたこと、また、村の警備の仕事に被差別部落の人々がどういう気持ちで行っていたかがはっきりと示されている。これを教材として扱うことにより、明るい展望の持てる同和教育を展開することができると言える。

#### F 指導上の留意点や指導体制

- ・差別されてきた人々について、例えば「東京書籍」では、社会科の教科書での表記について、平成11年度まで「低い身分とされた人々」という表記が、平成12年度から平成13年度にかけて「身分上きびしく差別されてきた人々」に変わってきている。従って、これら表記の変更の意味を踏まえて指導していくようにする。また、用語については、基本的には社会科の教科書の表記に従うようにし、さらに子どもや地域の実態に合わせ、扱うようにする。
- ・導入段階では「かわいそうだ」という意識も容認しながら、そこから子どもたちの意識を変えていくような、見通しを持った計画を考えていく。
- ・刀や十手は、学校ではなかなか手に入りにくいので、地域講師等をお願いしていくようにする。その際に、刀剣を扱う資格を持った人をお願いし、安全性に配慮しながら扱うようにする。

## 5 評価

### ○「村人さえ無事ならば」の授業を通して－感想から－

三之助、源七、円蔵の三人は、自分たちが斬りつけられても、村人を助けようとしたなんて、すごく勇気があるなあと思った。村人たちは、この事件で、少しは「身分上きびしく差別されてきた人々」を見直したんじゃないかと思う。自分たちを守るのがつとめだと言ってくれたんだから。

江戸時代に、このあたりできびしい差別が行われていたのを知ってびっくりした。そして、「身分上きびしく差別された人々」が自分の命をかけて、自分よりも村人を助ける方大切にしている行動がすごく印象的だった。

私は刀を初めて見たけれど、すごく刃がとがっていて重かった。警備役の三之助と源七は、あんなすごい刀を突きつけられたにもかかわらず、命がけで村人を助けてすごい。でも村人がその3人の姿を見ていて助けなかったのは少しひどいんじゃないかなと思った。村人を助けた3人はほかの人にはできないことをしたと思う。

刀は友達の家で見たことがあるけれどあんなに完全じゃなくてさびていた。十手も近くで見れてよかったし、持ってみてけっこう重かった。3人の警備役の人たちは、自分の命がどうなってもいいから助けたいと立ち向かっていて、すごいと思った。村人たちもいっしょには助けられなかったけれど、たぶん助けたいと思ったのかもしれない。

#### <子どもの感想から考えられること>

- 「身分上きびしく差別されてきた人々」が、「かわいそうな人々」でなく「社会にとって大切な人々」であったことが理解できたと思われる。
- 「身分上きびしく差別されてきた人々」の智恵や勇気に気づくことができたと思われる。

## 6 成果と課題

### 【成果】

- ・社会科の学習との関連を図ることにより、学習に深まりが見られ、児童が同和問題の学習に主体的にかかわることができた。
- ・日本刀と十手を見たことで、児童は「村人を助けるか、助けないか」という考えを3人の警備役の立場に立って、もう一度見直すことができた。
- ・最初は「身分上きびしく差別されてきた人々がかわいそう」と考えていた児童が、学習を重ねるにつれて、差別されてきた人々の生き方に共感し、「すごい」「えらい」と思うようになってきた。あわせて当時の身分制社会に対して、憤りの気持ちを強く持つようになってきた。これは、差別されてきた人々の相互扶助や仕事を開発したこと、さらに命をかけて村人を守ったことなど、社会に果たした役割に焦点を当てて学習を展開してきた結果と思われる。差別を受けていた事実を理解させ、その上でこのような展開をすることで、児童は差別されてきた人々に対してマイナスイメージを持つことなく中学校につなげていくことができる。

### 【課題】

- ・自分だったらどうするかというところまで考えさせることで、差別をなくす態度の育成につながっていくと思われる。